

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

3 公 民

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(政治・経済) <例>	P 3～5
III	「評価規準と単元計画」(政治・経済) <例>	P 6～7
IV	「学習指導案」(政治・経済) <例>	P 8

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・内容のまとまりごとの目標
…学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとまりごとの評価規準
…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとまり」について

- ・政治・経済においては、学習指導要領の内容（1）～（3）の中項目（例：「（1）ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」）などの中項目）を内容のまとまりとすることが考えられる。
- ・「内容のまとまり」は、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

○単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標…実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。
学習指導要領の項目ごとのねらいを基に記載する。
- ・単元ごとの評価規準
…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

※「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

○指導と評価の計画に、「ねらい、MQ」「学習活動」「評価の観点」「評価規準等」を示す。

- ・ねらい、MQ …授業におけるねらいと、主とする発問を示す。
- ・学習活動 …主な学習活動を示す。
- ・評価の観点 …4観点のうち、記録に残す評価など、授業における主な評価の観点を示す。
- ・評価規準等 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。

< 単元ごとの指導と評価の計画例 >

※国立教育政策研究所が作成している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 公民）」を参考に願います。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

単元の名前 「〇〇〇〇」

□単元の目標（学習指導要領の内容を単元の構成に合わせて一部修正して記述）

〇〇・・・・・・・・・・。

□単元の評価規準（評価規準の設定例を参考に作成）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。

□指導と評価の計画

●は記録に残す評価

次 程	学 習 活 動	評 価 の 観 点				評 価 規 準 等
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 1 時 間 扱 い ）	1 〇〇〇〇 【ねらい】 〇〇・・・・・・・・・・。 【MQ】 〇〇・・・・・・・・・・。					
	・〇〇・・・・・・・・・・。			●		②〇〇・・・・・・・・・・。

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

年間学習指導計画 政治・経済（第3学年・全学科）

科名	公民科（政治・経済）	教科書名	高等学校 ○○○○	発行社	○○○○	単位数	2
目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
到達目標に 向けての具 体的な取組	・基本的人権や議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、政治についての基本的な知識を身に付けさせ、現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、現代の日本や世界が直面する政治的課題について主体的に考察させる。 ・現代経済の仕組みや特質やグローバル化が進む国際経済の特質について理解させ、現代の日本経済や世界経済についての動向について関心を高め、グローバル化が進む中で日本経済や世界経済が直面する経済的課題について主体的に考察させる。 ・政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代日本や国際社会の政治的、経済的諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方や今後の日本や国際社会の在るべき姿について考察を深めさせる。						

月	単元・科目	時数	単元を貫く目標	主な学習活動	評価方法
4月	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本 原理 ①民主政治の特質 ②法の支配と人権の確立 ③民主政治のしくみ ④世界の主な政治体制	6	生徒が政治についての基本的な見方や考え方を身に付け、法の支配や国民主権、権力分立制など、民主主義の基本原則の意義と成り立ちについて理解している。	・政治単元の学習に当たり政治とは何かについて様々な視点から考察する。 ・社会契約説の内容や、社会契約説を唱えた思想家の考え方について理解する。 ・法の支配の歴史を学ぶとともに、人権論の歩みと人権の国際化が進んだ現状を理解する。 ・民主政治の歴史的展開を理解するとともに、現代の世界における民主政治の類型とその特徴を理解する。	行動観察 プリントへの記入
5月	第2節 日本国憲法の基本 原理 ①日本国憲法の制定と基本 原理 ②基本的人権の保障 ③平和主義	8	生徒が日本国憲法の基本原則の意義を理解した上で、現代社会における人権や安全保障の問題について自分の意見を述べることができる。	・日本国憲法の成立過程や内容について、大日本帝国憲法との比較を通して理解する。 ・人権保障の意義を深く認識し、日本国憲法における人権保障の内容について理解するとともに、現代の人権問題について興味・関心を高める。 ・憲法前文や第9条の精神を踏まえつつ、自衛隊や日米安全保障の合憲・違憲の問題や、国際環境が変化する中での日本の安全保障の在り方について考察する。	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入 前期中間考査
6月	第3節 日本の政治機構 ①立法 ②行政 ③司法 ④地方自治	6	生徒が日本の統治機構の仕組みを理解し、民主政治の基本原則に照らして、今後の統治機構の在り方について考察することができる。	・国会の組織・権限・機能を理解し、日本の国会運営の課題と今後の国会運営の在り方について考察する。 ・内閣の仕組みと権限について理解し、現代の行政の課題と今後在り方について考察する。 ・司法権の独立の意味と司法制度の仕組みについて理解し、日本の裁判制度の課題と今後の司法の在り方について考察する。 ・地方自治の意義や住民の直接参加の様々な制度を理解し、地方自治の課題について考察する。	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入
7月	第4節 現代政治の特質 と課題 ①選挙と政治意識 ②政党政治と政治参加 ③世論とマスメディア	3	生徒が選挙や政党制について理解することで、政治参加の意義を認識し、主権者としての意識を高めることができる。	・日本の選挙制度の歴史と現状を理解し、日本の選挙や政治意識における問題点について考える。 ・グループ学習を通じて日本の政党政治の問題点と望ましい市民の政治参加の在り方について考察する。	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入

				・マスメディアの世論形成に果たす役割について理解し、政治とマスメディアの望ましい関係について考察する。	
8月	第5節 現代の国際政治 ①国際関係と国際法 ②国際社会の組織化 ③国際政治の動向 ④国際政治の課題 ⑤地球市民社会の形成と課題 ⑥地球環境問題 ⑦地球社会における日本の役割	8	生徒が国際政治の理論や、これまでの国際社会の秩序維持の歴史を理解し、国際社会における日本の役割について考察することができる。	・国際連合を中心として、国際秩序を維持する仕組みについて理解するとともに、国際連合の問題点について考察する。 ・冷戦体制の成り立ちの歴史について理解し、冷戦終結後の軍縮や、地域紛争への対処などに対し国際社会がどのように取り組むべきかを考える。 ・今日の環境問題の特質を理解し、その解決のための課題について考察する。 ・戦後日本外交の歩みについて理解するとともに、グループ学習を通じて、日本の安全保障やアジアを中心とする国際社会における日本の役割について考察する。	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入 前期期末考査
9月					
10月	第2章 現代の経済 第1節 経済社会の変容 ①資本主義体制の成立と発展 ②社会主義経済の登場と変容 ③現代の資本主義経済と企業	4	生徒が資本主義経済と社会主義経済を比較し、その特徴と歴史についてまとめることができる。	・資本主義経済と社会主義経済の特徴とその変容の過程を、それぞれの経済体制を支えた経済思想と関連させながら理解する。 ・現代の企業の形態や組織上の特徴について理解し、グローバルな競争下での企業のダイナミックな活動について興味・関心を高める。	行動観察 プリントへの記入
11月	第2節 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環 ②市場経済の機能と限界 ③国民所得と経済成長 ④資金の循環と金融 ⑤租税と財政	8	生徒が経済についての基本的知識を身に付け、様々な経済現象について多面的・多角的に考察することができる。	・三つの経済主体について理解し、現代の企業活動の多様化やグローバル化について興味・関心を高め、現代における企業の役割について考察する。 ・市場経済の機能や限界、GDPをはじめとする経済指標について理解する。 ・金融システムの概要や、金融政策の仕組み、金融自由化の過程について理解する。 ・財政の役割や、予算制度や租税制度の概要について理解し、財政危機や租税回避などの財政上の課題について考察する。	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入 後期中間考査
12月	第3節 日本経済の発展と課題 ①日本経済の発展 ②中小企業の現状と課題 ③農業・食糧問題 ④公害防止と環境保全 ⑤資源・エネルギー問題 ⑥物価と消費者問題	7	生徒が戦後の日本経済の発展の歩みを理解し、日本経済が直面する様々な課題について多面的・多角的に考察することができる。	・高度経済成長の要因と産業構造の高度化、経済のサービス化とソフト化について理解するとともに、転機に立つ日本経済の現況について理解し、今後の日本経済の向かうべき方向性について考察する。 ・中小企業や農業の現状と課題について理解する。 ・四大公害を始めとする公害の歴史について、その原因と公害への汚染企業、政府の取り組みを中心に理解し、今後への教訓を考える。 ・日本の資源・エネルギー問題の現状について理解し、今後の課題について考察する。 ・日本の物価や消費者問題について、新聞や書籍等から収集した資料を通して、その背景と今後の解決策について考察する。	行動観察 ペアワーク、グループワーク 調べ学習 プリントへの記入
1月	第4節 労働と社会保障 ①労使関係と労働市場 ②社会保障と社会福祉	4	生徒が労働者の権利保障や、社会保障の意義について理解し、今後の雇用や社会保障の在り方について	・労働問題の歴史や、憲法や各種労働法制を通じた労働者の権利保障の意義について理解するとともに、非正規雇用の増加等の雇用問題について興味・関心を高め、今後の雇用の在り方に	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入

			いて主体的に考察することができる。	ついて考察する。 日本の社会保障制度の概要を理解し、少子高齢化が進展する中での今後の社会保障の在り方について考察する。	
2 月	第5節 国民経済と国際経済 ①貿易と国際収支 ②経済対立と国際協調 ③国際経済における日本の役割	6	生徒が経済活動のグローバル化が、世界経済や日本経済に与える影響や、その問題点について多面的・多角的に考察することができる。	- 自由貿易の考え方を保護貿易論との比較を通して理解し、為替相場の変動要因とその影響、国際収支について理解する。 - GATTやIMFなど戦後の貿易、為替に関する制度の歴史について理解し、国際資本移動の拡大がもたらす問題について興味・関心を高める。 - グループ学習を通じて、EUやAPEC等の地域主義や、FTAやEPA等の地域間協定が国内経済や、世界経済に与える影響について考察する。 - 国際経済における日本の果たすべき役割について考える。	行動観察 ペアワーク、グループワーク プリントへの記入
3 月	第3章 現代社会の諸課題	10	生徒が現代社会の諸課題について多面的・多角的に考察する活動を通じて、問題の所在とそれへの対処法について論述することができる。	日本社会の諸課題、国際社会の諸課題の中から、グループごとに興味・関心のあるテーマを一つ選び、書籍やインターネット等を利用して資料を収集し、レポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。	レポート作成 プレゼンテーション 学年末考査

合計時間数 70 時間

単 元 指 導 計 画

単元の名前	現代経済のしくみ
-------	----------

□単元の目標

企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働きについて理解させるとともに、グローバル化や少子高齢化が進む現代社会において、租税負担や財政危機、企業の社会的責任等の問題について正義・公平・公正の観点から考察させる。

□単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①現代の経済社会における企業、政府、家計の役割に対する関心が高まっている。 ②企業、政府、金融機関等の経済主体の経済活動について、自らの生活と関連させながら、関心をもって学習している。 ③金融機関や多国籍企業のグローバルな活動に伴う問題点や、公的部門の財政赤字等がもたらす将来の問題等について興味・関心をもっている。	①企業の社会的責任や、現代における企業の在り方について考え、意見を発表できる。 ②税制や財政制度、そしてその改革が我々の生活にどのような影響を与えるかについて、自ら考え、その是非について意見を発表できる。	①様々な経済統計を活用することで、日本と世界の経済の概況と、近年の変化の傾向を適切に読み取ることができる。 ②様々な経済統計を活用することで、日本の企業、政府、金融機関の経済活動の特徴と現在の課題を把握できる。	①企業部門、金融機関、政府の経済活動の概要とそれぞれの相互依存関係について理解している。 ②金融制度や財政制度、税制の仕組みについて理解を深め、その知識を身に付けている。 ③市場における価格調整機能の仕組みや、財政政策や金融政策のメカニズムについて理論的に理解している。

□指導と評価の計画

●は記録を残す評価

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 二 時 間 扱 い ）	1 経済主体と経済の循環 【ねらい】企業のしくみや企業活動の概要について理解し、現代社会において企業が果たすべき役割について考察する。 【MQ】現代社会において、企業の果たすべき役割としてどのようなことがあるか？					
	・三つの経済主体の活動について理解する。 ・企業活動の概要と、株式会社の仕組みについて理解する。 ・現代における企業活動の多様化やグローバル化の背景について興味・関心をもつ。 ・現代社会における企業の果たすべき役割について考察し、意見を発表する。	○	●	○	○	・三つの経済主体の経済活動の内容と、主体間の相互連関を理解している。 ・企業活動の概要と、株式会社の仕組みについて理解している。 ・資料を読み取り、企業活動の多様化やグローバル化について興味を抱いている。 ・企業の果たすべき役割について考察し、自分の意見としてまとめ、発表できる。
第 二 次 （ 二 時 間 扱 い ）	2 市場経済の機能と限界 【ねらい】市場経済の基本的しくみと、その限界事例としての寡占化、市場の失敗について理解する。 【MQ】市場経済において需要と供給はどのようにして調節されるのか。					
	・価格の自動調節メカニズムについて理解する。 ・寡占、独占を含めた市場の失敗の原因と影響について理解する。				● ○	・価格の自動調節メカニズムを理解し、これを現実の経済現象に当てはめ、分析することができる。 ・市場の失敗の原因と影響について理解している。

第三次 (一時間扱い)	3 国民所得と経済成長 【ねらい】GDPや経済成長率等の各種経済指標の意味を理解し、景気変動の要因と影響について理解する。 【MQ】国の経済活動の規模をどのようにして表したらよいか？					
	・GDPや経済成長率等の各種経済指標の意味を理解し、各種統計を用いて経済成長率等の数値を計算する。 ・景気変動の要因と、変動が雇用や物価等に応じたような影響を与えるか理解する。			○	● ○	・GDPや経済成長率等の経済指標の意味を理解している。経済成長率やGDPの数値を求めることができる。 ・景気変動の要因とその影響について理解している。
第四次 (二時間扱い)	4 資金の循環と金融 【ねらい】わが国の金融システムと金融政策の概要について理解し、近年の金融システム改革の背景とその影響について興味・関心をもつ。 【MQ】中央銀行や各種の金融機関はどのような役割を果たしているのだろうか。					
	・貨幣の機能、金融システムや金融政策の概要について理解する。 ・経済状況の変化と共に、わが国の金融システムがどのように変化していったのかについて、興味・関心をもって理解する。				● ○	・貨幣の機能、金融システムや金融政策の概要について理解している。 ・近年の金融システム改革の背景とその影響について興味・関心をもって学習している。
第五次 (二時間扱い)	5 租税と財政 【ねらい】財政や租税のしくみと働きについて理解するとともに、現在の日本の財政状況に対する問題意識を持ち、将来に向けての課題を考察する。 【MQ】富裕層や企業の租税回避行動を避けるための減税は、自国の経済や国家財政にどのような影響を与えるのか？					
	・政府の経済的役割について理解し、わが国の財政制度や租税制度、現在の財政状況についての基本的な知識を習得する。 ・企業や個人の自由でグローバルな租税回避行動と税負担の衝突について、幸福・正義・公正の観点から考察する。 企業・個人の幸福 租税回避 対立 × 国民の幸福 国家財政の維持 公正 解決策を考える＝正義について考える			○	● ○ ○	・財政制度や租税制度についての基本的知識が習得できている。 ・統計を利用し、現在の日本の財政状況についての概要とその問題点をまとめることができる。 ・租税回避行動に見られる企業や個人の経済活動の自由と国家財政の維持の対立について、幸福・正義・公正の観点からグループワークを通じて考察している。

学 習 指 導 案

教科（科目）		公民（政治・経済）		単元名	租税と公債（8時間目／8時間）		
日 時		平成 26 年〇〇月〇〇日		クラス	3 年〇組(〇〇名)	指導者	〇〇〇〇
使用教科書		『高等学校 〇〇〇〇』		副教材	『〇〇〇〇』		
本時の主題		税負担の在り方について					
本時の目標		・消費税率の引き上げや、法人税率の引き下げなど、今後進行する日本の税制改革の概要について理解する。【知】 ・富裕層の移住や、タックスヘイブンの利用など、日本を含めた世界各国で生じている租税回避の傾向を理解し、それらの行動が国家財政や国民経済に与える影響について幸福・正義・公正の観点から考察し、意見を発表する。【思】【技】					
指導内容・ねらい		学 習 活 動			指導上の留意点・観点別評価		
導 入	○消費税の引き上げ、タックスヘイブン、多国籍企業	○教師による、消費税の引き上げと法人税の引き下げとカリブ海の島々、そして多国籍企業が税を通じてつながっているという説明を聞き、生徒が本時の授業への興味・関心を高める。			○教師が生徒に、消費税率の引き上げや、タックスヘイブンの地域や国名について質問する。		
	○前時の復習	〈発問①〉所得税や消費税が担税者にどのような影響を与えるのか？ ・生徒が所得税、消費税、法人税がそれを負担する者へどのような影響を与えるのか復習する。 ・生徒がタックスヘイブンに関するビデオの視聴や新聞記事を読み、タックスヘイブンとは何か、またタックスヘイブンを利用して企業や富裕層がどのようにして租税負担を回避するのかについて理解する。			○教師が生徒に、前時で学習した税のことについて答えさせ、授業への参加意欲を高める。		
展 開	○富裕層や企業による租税回避	・生徒がタックスヘイブンに関するビデオの視聴や新聞記事を読み、タックスヘイブンとは何か、またタックスヘイブンを利用して企業や富裕層がどのようにして租税負担を回避するのかについて理解する。			○タックスヘイブンの仕組みは、生徒にとっては難解なので、教師が丁寧に補足説明をする。 ＜評価方法＞生徒がタックスヘイブンについて理解している（プリント記入）。【知】		
	○租税回避行動の国民経済や国家財政への影響	【グループ学習（4人1組）】 ○グループに分かれ、意見交流を行い、富裕層や企業の租税回避を避けるための所得税や法人税の減税が自国の経済や財政に与える影響についてグループとしての意見をまとめる。 〈発問②〉富裕層や企業の租税回避行動を避けるための減税は、自国の経済や財政にどのような影響を与えるのか？ ・生徒が先ほど視聴したビデオや新聞記事等の資料を活用して、富裕層や企業の租税回避を避けるための減税が与えるプラスの影響を黄色の付箋に、マイナスの影響をピンクの付箋に記入し、意見交換をしながら、ワークシートに貼っていく。 ・メンバーの意見を集約して、グループとしての意見をまとめ代表者が発表する。			○全員に意見発表する機会を与えるために、グループ学習を行う。 ○教師がワークシートと、付箋を配る。 ＜評価方法＞生徒がプラス、マイナスの影響を考え、自分の意見を表現し、仲間と意見調整をしながら、グループの意見をまとめることができる。【思】【技】		
ま と め	○租税回避を避けるための減税の是非	〈発問③〉富裕層や企業の租税回避を避けるための減税は是か非か？税の負担はどうあるべきか？ ・生徒が各グループの発表を聞き、富裕層や企業の租税回避を避けるための減税の是非について、幸福・正義・公正の観点から判断し、意見をプリントにまとめ、グループ内で意見交換をする。			○意見交換時には、多様な視点からの判断が可能となるよう教師が適宜、助言をする。 ＜評価方法＞ 生徒が各グループの意見をもとに、減税の是非について、自ら判断し意見を述べることができる。【思】		